

2022 年 11 月 9 日

一般社団法人 日本船主協会

徳山下松港イベントでブースを出展 ～海運の認知度向上に向けた活動～

当協会では、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を広く一般の皆様を知っていただけるよう、商船・海事施設の見学会、出前授業や海運に係る各種資料の配布など広報活動を展開しております。

今般、当協会は 11 月 5～6 日（土・日）に開催された徳山下松港開港 100 周年記念イベント（山口県周南市）の機会を捉え、海事関係団体^{※1}と連携し、海運をはじめとした海事産業を紹介するブースを出展しました。天気にも恵まれ、同ブースには 2 日間で、4,000 人近く^{※2}の方が来場し、両日とも終始大盛況となりました。

ブースでは、外航海運・内航海運・船員に関するクイズラリーを実施し、テント内に掲示したパネルをヒントに解き進めてもらいました。外航海運に関するクイズでは、「日本の貿易量のうち海運が運ぶ割合は？」を出題し、99%以上を海運が担うことなどを紹介しました。



パネルを見学する参加者



クイズの答え合わせを待つ参加者

また、缶バッジ製作体験も実施し、子どもたちを中心に、缶バッジに描かれた海上輸送の割合やコンテナ船・自動車船のイラストに色を塗り、オリジナルの缶バッジを製作しました。子どもたちの嬉々として製作に取り組む姿や完成した缶バッジを身に付け喜ぶ姿が大変印象的でした。

さらに、クイズ正解者や缶バッジを製作した子どもたちには、当協会をはじめとした各海事関係団体のノベルティをプレゼントするとともに、その他来場

者にも海事関係資料を配布しました。

各種ノベルティや配布資料を手にした子どもたちからは「99%以上を船が運んでいるとは知らなかった」「船にもいろんな形があるんだね」など多くの声が寄せられるとともに、「(当協会の資料を見て) 以前学校で配布されていて、見たことがある^{※3}」といった声もありました。



缶バッチ製作に取り組む子どもたち

この他、海事産業への理解を深めていただけるよう、日本海事広報協会主催のジュニア・ SHIPPING・ジャーナリスト賞（船や港を題材にした壁新聞コンテスト）の入賞作品を展示しました。

当協会は今後とも、海事関係団体などとも協力し、海運の重要性の認知度向上に向け、各種広報活動に取り組んでまいります。

ご参考：「徳山下松港 100 周年イベント」特設サイト URL

<https://tokuyama-kudamatsu-port100th.com/>

※1 日本海事広報協会、日本内航海運組合総連合会、海技振興センター、日本水先人会連合会、海難審判・船舶事故調査協会

※2 クイズ回答者数やノベルティ配布数から同ブースへの来場者数を想定

※3 「港や海、地場産業への関心と興味を高め、将来的な地元就業へと繋げるため、周南市、下松市、光市の小学 5 年生を対象に行う港での仕事やコンビナート企業の社会見学事業」にも当協会は資料提供や引率者向け研修会に協力

以上